

地質図を用いた商品開発のすすめ

その4 手さげ袋

齋藤 眞¹⁾・國本 節子¹⁾

前号は, inkmaxの魔法の布のうち薄手の綿シャーチングと中厚のポプリンを使って暖簾, バンダナの試作品を紹介しました。今回はキャンバス地を使った手さげ袋を紹介します。エコバッグの場合は薄手でいいのですが, ノートパソコンも持ち運べるよう丈夫なキャンバス生地で試作してみました。

写真はA4サイズが入る袋です。この袋は1枚の布を2つに折り曲げて作っています。口は2回折って縫ってあります。持ち手の部分は, 袋の形を取った残りの部分を折り曲げて作ってあります。布からの切り取り線や折り目の線は, 表に出る部分でも目立たないよう細い点線を一緒にプリントしました。厚手なのでインクがちゃんと染みこんでいるか心配でしたが, 発色・耐洗濯性は全く問題なく, 手触りの良いとても丈夫な物ができました。

このような手さげ袋は博物館やジオパークでお土産物入れとして最適で, お土産物を入れて歩いてもらうと宣伝にも効果的ですし, 持ち帰っても使ってもらえます。厚手なら仕事に使うこともできます。今回は印刷が片面だけですが, 裏に凡例等の説明をつけることも可能です。

前号の暖簾, バンダナも同じですが, 地質図を使っていますので, 地域が変われば必ず別なデザインになり, 地域の独自性を出すことができます。専門家は, その地域に合った地質図の素材を選ぶことに協力できると思います。ただ商品として魅力ある物にするためには, デザイナーと協力して魅力あるデザインにすることが必要です。このような商品を作るためには, 地質の専門家-デザイナー-地元が協力してデザインを作り, 印刷を技術のあるところに委託し, 縫製を地元で行って, 販売するプロセスが妥当ではないかと思われれます。

参考までに今回の試作品にかかった費用は, inkmaxの魔法の布が1,500円/mくらい, 加えて大型プリンターのインク代や減価償却, さらに縫製作業費が加わります。自分でこれらの商品を, 観光地でのお土産として買おうと思ったら, キャンバス地の手さげ袋で1,500円前後が限界でしょう。バンダナは800円くらい, 暖簾は大きい物でも2,000~3,000円くらいであれば買うでしょうか。それを考えると, 今回の試作品



では上記の価格では販売できません。50cm角のバンダナでも布代が375円かかっています。

実際の印刷工程ではロットや印刷方法によって価格は下がるとは思いますが, 価格には縫製などの人件費, 流通経費, デザイン費などさまざまなコストを含めなければなりません。実際にどうビジネスにしていかが課題になると思います。

<http://designgarden.jp/>

<http://riodb02.ibase.aist.go.jp/db084/>

SAITO Makoto and KUNIMOTO Setsuko (2010) : Recommendation of product development using a geological map. 4. Carrier bag.

<受付: 2010年5月11日>

1) 産総研 地質情報研究部門

キーワード: 地質図, 商品開発, コンセプト, 布製品, 手さげ袋